		実績報告	書				
届出者 住所 大阪市阿倍野区昭和町3	-1-64		氏名	学校法人 桃山学院 理事長 出田 善蔵			
 特定事業者の主たる業種	81学校	教育		<u></u> 连争文 山田			
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号 者					
該当する特定事業者の要件		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する 者					
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに 該当する者					
事業の概要	教育事業	業					

(1)計画期間							
2015	年 4	月	1 目~	2018 年	3	月	31 日(3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014)年度	前年度( 2017)年度
温室効果ガス総排出量	5, 363 t -CO <sub>2</sub>	4,769 t −CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,997 t-CO <sub>2</sub>	5, 275 t −CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素	の吸収量	0 t -CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

		区分	削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択		削減率(排出量ベース)	3.0 %	8.5 %	0.9 %	11.1 %
迭八		削減率(原単位ベース)	%	%	%	%
削減率	削減率(平準化補正ベース)			5.3 %	-1.3 %	12.1 %
吸収量に	こよる削	減率	%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

平成29年度、和泉キャンパスで中央監視システムの全面更新を実施し効率的な空調機の運転を実施した。また、空調の運転日や運転箇所の見直しを行い空調運転時間の短縮による空調ガス、空調電力使用量の削減を実施した。さらに、聖バルナバ館2Fと聖マーガレット館1Fの照明のLED化を実施し電気使用量の合理化を行った。

桃山学院では、常務理事会の下、省エネルギー推進委員会を定期開催し、エネルギー使用量実績の報告や対策を検討し、桃山学院管理標準に基づく、「クールビズ、ウォームビズの継続実施」「省エネマニュアルに基づく運用」等の活動を継続して行った。

桃山学院大学においても、学長室長を委員長とする環境委員会の下、省資源・省エネルギー部会を設け、学生を 中心 として啓蒙活動を行っている。

# (3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

# 1. 産業・業務分野

No.	(GHG) 及び人	果ガス の排出 L排熱の .分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)	
	レ	GHG排出		コード (1218)	平成27年度総合体育館外灯、平成28年度総合体育館、聖ペテロ館、平成29年度聖バルナバ館 2	2015	年度
1	V	人工排熱	桃山学院大学	LED照明器具		$\sim$	
	レ	平準化	V = 1 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	への交換		2017	年度
					施。		
	レ	GHG排出		コード (1217)	聖ヨハネ館 2 F 教室の全熱交換器24H連続運転	2015	年度
2	レ	人工排熱	桃山学院大学	人数大格即字起	熱交換器運転 を終日運転停止の運用に変更し電力量を削減した。	$\sim$	
4	レ	平準化	他田子阮八子	全熱父換器連転 時間短縮		2017	年度
		•		时间应相			
	レ	GHG排出		コード (1127)	システムの情報を有効活用し、空調運転の効率	2017	年度
0	レ	人工排熱		de la moderna e e e	化を図り、空調ガス、空調電力の削減を行っ	$\sim$	
3	3 レ 平準		桃山学院大学	中央監視システムの全面更新	た。		年度
				ムの王田文別			
2.	自動車分	·野					

No	).	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		(GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		(GHG)の排出 及び人工排熱の		(GHG)の排出 及び人工排熱の		(GHG)の排出 及び人工排熱の		(GHG)の排出 及び人工排熱の		(GHG)の排出 及び人工排熱の		(GHG)の排出 及び人工排熱の		(GHG)の排出 及び人工排熱の		(GHG)の排出 及び人工排熱の		及び人工排熱の		(GHG)の排出 及び人工排熱の		(GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	ジュ	スケ ール .度)										
		レ	GHG排出	桃山学院大学	コード (2123)	エコ安全マニュアル5ヵ条のリーフレット配布	2015	年度																																		
	1	レ	人工排熱		*********		$\sim$																																			
	1				車両運転時のエ コドライブ推進		2017	年度																																		
		レ	GHG排出	桃山学院大学	コード (2121)	清掃用運搬車両に電気自動車を導入した。	2017	年度																																		
,	0	レ	人工排熱		<b>愛欠り利求の逆</b>		$\sim$																																			
-	۷.		_		電気自動車の導 入		2017	年度																																		

## (4)その他の抑制対策

-		

				実績報	告書			
届出者 住所	ŕ	大阪府守口市京阪本通2	2 — 5 —	5	氏名	守口市 市長 西端 勝樹		
特定事業者の	の主7	たる業種	98地方位	公務				
17/C 17/C 17/C 17/C 17/C 17/C 17/C 17/C			レ	大阪府温暖化 者	の防止等に	こ関する条例施行規則第3条第1号に該当する		
該当する特別	該当する特定事業者の要件		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する 者					
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに 該当する者					
事業の概要			小中学校 道路、2	交、保育所、コ 公園、上下水道 地方自治法に	ュミュニテ <b>貞</b> 局等の生	10月1日 面積12.71 k m2)地域内の幼稚園、 ィセンター、福祉施設等各種施設の設置管理・ 活環境の整備・一般廃棄物処理等のサービス提 、住民の日常生活に直接関係する事務を包括的		

(1)計画期間							
2015	年 4	月	1 目~	2018 年	3	月	31 日(3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014)年度	前年度( 2017)年度
温室効果ガス総排出量	28,570 t-CO <sub>2</sub>	29,568 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	30,594 t −CO <sub>2</sub>	31, 267 t -CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素	の吸収量	0 t -CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

		区分	削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017年度)
選択		削減率(排出量ベース)	3.0 %	4.2 %	3.9 %	-3.5 %
迭扒		削減率(原単位ベース)	%	%	%	%
削減率	削減率(平準化補正ベース)			4.3 %	4.7 %	-2.3 %
吸収量に	こよる削	減率	%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

- ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策
  - (1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

基準年度と比較し、温室効果ガス総排出量(平準化補正後)は673t-C02の増加となった。原因は主に市役所本庁舎移転による建物の延べ床面積の増大(1.38倍)及び施設の老朽化に伴うエネルギー使用量の増加と考えられる。また、旧本庁舎には無かったテナント事業所(守口保健所等4施設)が本庁舎に移転し、そのエネルギー使用量の増加も排出量の増加の原因と考えられる。

守口市地球温暖化対策実行計画に基づき、各部署の温暖化対策推進委員を中心として、職員一人一人が環境への配慮 を考え、対策を実行することで、排出される温室効果ガスを削減し、温暖化防止を推進している。 水道局においては、エネルギー管理士による温暖化防止教育を実施している。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

### 1. 産業・業務分野

No.	温室効果が (GHG)の排 及び人工排 区分	丰出	事業所名	対策項目	対策の内容	ジュ	スケ ール 度)
1	レ GHC レ 人工社 平準化		全ての事業所	コード (1111) 省エネルギーの 徹底	冷暖房温度を夏28℃、冬20℃にする。昼休み時間、使っていない部屋の消灯。その他、省エネルギーの徹底。	2015 ~ 2017	年度 年度
2	レ GHC レ 人工社 平準化		守口市水道局		総水量に見合ったポンプの選択等、運転管理を 徹底します。	2015 ~ 2017	年度 年度
3	レ GHC レ 人工社 平準化		守口市水道局	コード (1114) 日常点検強化	日常点検を強化してエネルギーのロスを防止する。 る。	2015 ~ 2017	年度 年度
4	レ GHC レ 人工社 平準化		守口市水道局	コード (1126) ポンプの改良	ポンプ改良工事を行い、ポンプの送水効率を増加させる。	2015 ~ 2017	年度 年度
5	レ GHC レ 人工社 平準化		守口市水道局	コード (1126) 空気調和施設の 更新	効率の良いビル用マルチシステムを導入して、 使用電力を削減する。	2015 ~ 2017	年度 年度
6	レ GHC レ 人工社 平準化		守口市水道局		汚泥を近隣の浄水場へ圧送することにより、汚 泥処理使用電力削減する。	~	年度 年度

# 2. 自動車分野

No.	(GHG) 及び人	1果ガス の排出 工排熱の [分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)		
1	レ	GHG排出 人工排熱	全ての事業所	コード (2123) エコドライブの	エコドライブを推進する(不要なアイドリング。急発進・急加速・空ぶかしの防止)。	2015 年度 ~		
1				推進		2017 年度		

# (4)その他の抑制対策

市民への啓発活動:市民まつりを通じ、温暖化防止への認識を深めるように活動している。 職員への啓発活動:各課に温暖化対策推進委員を設け、職員の意識向上に努めている。また、夏や冬などの電力使用量 が増加する期間には、節電行動計画を実施し節電に努めている。

	実績報告書								
届出者	住所	大阪府河内長野市楠町東	된1615		氏名	モリ工業株式会社 取締役社長 森 宏明			
特定事業	業者の主	たる業種	24金属	製品製造業					
	該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化 者	の防止等に	こ関する条例施行規則第3条第1号に該当する			
該当する				大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する 者					
				大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに 該当する者					
事業の権	既要			レス管、ステン パイプ切断機 <i>だ</i>		プ加工品、ステンレス条鋼、鋼管(普通鋼)、  造、販売			

(1)計画期間												
2015	年	4	月	1	日~	2017	年	3	月	31	目	(3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014)年度	前年度( 2017)年度
温室効果ガス総排出量	16, 243 t -CO <sub>2</sub>	16, 968 t -CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	18, 164 t -CO <sub>2</sub>	18,975 t −CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素	0 t-CO <sub>2</sub>	

#### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

		区分	削減目標	第1年度	第2年度	第3年度
		四月	(2017 年度)	(2015 年度)	(2016 年度)	(2017 年度)
選択		削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
迭扒	レ	削減率 (原単位ベース)	3.0 %	-2.1 %	2.0 %	-0.5 %
削減率	(平準化	(補正ベース)	- %	-2.3 %	2.0 %	-0.5 %
吸収量は	こよる削	減率	%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (材料使用量 ) (温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

河内長野工場と美原工場の材料使用量を揃えるため、美原原単位/河内長野原単位で換算を行う。平成26年度実績原単位 20.4 (美原原単位)/104.0 (河内長野原単位)=0.196 を換算係数とし美原工場分に乗じて合算とする平成26年度材料使用量、64645 (長野分)+52457 (美原分)\*0.196=74926 平成29年度材料使用量、67023 (長野分)+55416 (美原分)\*0.196=77885

# ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

水銀灯照明からLED照明への更新・高周波発信器を高効率の半導体式へ更新(美原工場)・事務所空調機更新(美原工場)・高効率ポンプへの順次更新などを継続的に進めているが、今年度は、製品の薄肉化による1製品あたりへの材料使用量の減少などにより、材料使用量の増加以上にエネルギー使用量が増加した。また、目玉となる省エネ改善事案が無かった。

環境マネジメントシステムにより環境管理委員会を年2回開催、省エネ活動を推進するため省エネ委員会を月1回開催している。これらを軸に省エネと地球温暖化防止のための活動を行っている。また、平準化については、一部夜間への振替操業を行うという形をとっている。現状、蓄電池やコージェネ設備の導入等については検討していない。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

#### 1. 産業・業務分野

	土木 木切刀刃					
No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	(GHG)の排出 とび人工排熱の 区分 事業所名		対策の内容	実施 ジュ (年	ール
	レ GHG排出		コード (1215)	高効率変圧器への順次更新	2015	年度
	レ人工排熱	河内長野			$\sim$	,
1	レ 平準化	美原	変圧器の更新		2017	年度
						1 50
	レ GHG排出		コード (5111)	経年経過している空調設備の順次更新	2015	年度
	レ人工排熱			THE TANK OF THE PROPERTY OF TH	$\sim$	1 🗻
2	レ 平準化		空調設備の順次		2017	年度
	1 +10		更新		2011	十及
-	レ GHG排出		コード (1218)	工場照明のLED化と事務所照明のLED化	2015	年度
	レ人工排熱		_ [· (1210)		~	一尺
3	レ 平準化	全事業所	照明設備のLE			年度
	7 十年に		D化		2011	十尺
-	レ GHG排出		コード (1218)	不要な照明は消灯する	2015	年度
	ト 人工排熱		J (1216)	小女は飛りは旧月 ケる	2015	十段
4	•	全事業所	不要照明の消灯		2017	左曲
	ア準化 平準化		小安熙奶炒有灯		2017	年度
	レ GHG排出		- IS (1100)	お打し マンス 本担まおい プの再加の吹は か	0015	/r: nh:
		77.E.	コード (1126)	老朽化している冷却水ポンプの更新の際は、省		年度
5	レ 人工排熱	河内長野	省エネポンプへ	エネポンプを採用する。	~	<b></b>
	ア 単化	美原	の更新		2017	年度
	1					t t .
	レ GHG排出	河内長野	コード (1126)	クレーンの老朽化に伴いインバータ化へ更新す		年度
6	レ人工排熱	美原大	クレーンのイン	る。	$\sim$	
	レ 平準化	版DC	バータ化による		2017	年度
			省エネ			
	GHG排出		コード (5121)	一部夜勤業務の実施	2015	年度
7	人工排熱	河内長野	昼間時間帯の		$\sim$	
1 '	レ 平準化	四月以刊	登间时间 (市の) ピークカット		2017	年度

# 2. 自動車分野

	No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)		
		レ	GHG排出	全事業場	コード (2121)	社有車の更新の際、低燃費車を導入する。	2015 名	<b></b> 手度	
	1	レ	人工排熱				$\sim$		
	1		-		低燃費車の導入		2017 至	丰度	
Γ		レ	GHG排出	全事業場	コード (2123)	構内車、社有車のエコドライブの推進	2015 名	<b></b> 手度	
	9	レ 人工排熱		ーールニノゴの		$\sim$			
	2				エコドライブの 推進		2017 年	<b></b> 手度	
					4 page 4				

#### (4)その他の抑制対策

	実績報告書									
届出者	住所	大阪市中央区久太郎町 4	番3号	氏名	森田化学工業株式会社					
				У (1	代表取締役社長 森田康夫					
特定事業	業者の主	たる業種	16化学]	工業						
	該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の 者	防止等に	に関する条例施行規則第3条第1号に該当する				
該当する				大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する 者						
				大阪府温暖化の 該当する者	防止等に	に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに				
事業の植	既要			素化合物の製造、 大阪市と堺市の		· · 本社				

(1)計画期間					
2015 年	4 月	1 目~	2018 年	3 月	31 日(3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014)年度	前年度( 2017)年度
温室効果ガス総排出量	11, 101 t -CO <sub>2</sub>	11,690 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	11,818 t-CO <sub>2</sub>	12, 281 t -CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素	の吸収量	0 t -CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

		区分	削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017年度)
選択		削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
迭扒	レ	削減率 (原単位ベース)	3.0 %	8.2 %	5.7 %	20.8 %
削減率	(平準化	(補正ベース)	- %	8.4 %	6.5 %	21.9 %
吸収量は	による肖	減率	%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (売上金額 ) (温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

冷凍機:神崎川事業所:インバーター制御の冷凍機を導入 堺事業所:吸収式冷凍機を最新式に更新 照明:神崎川事業所、堺事業所 :場内の屋外の水銀灯をLED化を実施 エアコン:神崎川事業所、堺事業所:省エネタイプに 更新

平準化期間のエネルギー使用量を削減する目的で省エネタイプのエアコンへの更新を逐次進めている。 また、照明 LEDへの更新は年間全体の10%以上目指し進めている (削減目標CO2排出量 20t-CO2)

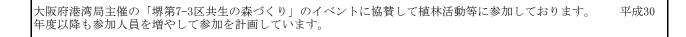
(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

# 1. 産業・業務分野

According	1. //-	王美・美務分野		1	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
RO   2015 日本   2017 日本   2015 日本   2017 日本							
	No.		事業所名	対策項目	対策の内容		
□						(年	度)
1   レ				コード (1216)	全社内約150台を年3~5台程度をグリーン購入	2015	年度
1		*	1	(1210)			1 1/2
2	1	•	全事業所	グリーン購入品	ンを更新、堺事業所でマルチエアコンとエアコ		任庶
2         レ		7 十年16	1	/ / × 外母/ NIII		2011	十汉
2         レ		CHC##		コード (1196)		2015	在庶
2   中部に		•		- 1, (1120)			十戊
1	2			高効率電動機の			左庄
***********************************		半準化	が尹禾川	採用		2017	干及
***********************************		1		→ 1° (4444)	コンプレル井 の少テラ教師 ニマーロール教	0015	左座
13   1   1   1   1   1   1   1   1   1			******************************	コート (1114)			午度
1	3	•		da			
A		平準化		有エイ	/ <sup>기브</sup>	2017	牛皮
A		, ,		20 (112)	# H T1/M 0 2 24ET 210 h 2 1 2 10 a 11c+h 2	00:-	<del></del>
4         東事業所         省エネ         保温の不具合個所を調査を実施した。         2017 年度           5         レ ALP#8		•	11.11.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.	コード (1125)			年度
Table   中華に   日に   日に   日に   中華に   中華に   中華に   中華に   日に   日に   日に   日に   日に   日に   日に	4		7 7 7 47 7 7 472 7				
5         レ 人工時無 早年化         神崎川事業所 場事業所         本文         実施する2年に1回         ~         2017 年度           6         レ 人工時期 レ 人工時期 レ 人工時期 中崎川事業所         本社         コード (1299) 夏季のノーネクタイなどクールビズを継続中 ~ 2017 年度         2015 年度 ~ 2017 年度           7         レ 人工時期 レ 上平作 ・ 2017 年度         全事業所         コード (1112) 省エネ活動の啓 要と習慣化のた め で省エネ経動の啓 した。 2017 年度         2015 年度 ~ 2017 年度           8         レ 人工時期 平準化         中崎川事業所 平事業所         コード (1218) 照明のLED化の推進を実施 年間10%程度の照 明をLED化する 堺事業所で厚生棟食堂の照明 更な室、トイレなどの照明をLED化、神崎川事 業所、作業場のLED化に続き外灯の LED化、実施 機等へ流量計の取り付けを計画中 流量計をボーイラー出口、設備の熱交換 機等へ流量計の取り付けを計画中 流量計をボーイラー出口に設置し、使用量のデーター集計中 2017 年度         2015 年度 2017 年度           10         レ GHG排出 人工時期         オー財・ 事業所         コード (1121) 貫流ボイラーを省エネタイプのボイラーに2017 年度に更新した。 ボイラーが使用する13A使 第二ネ         2015 年度 ~ 2017 年度           11         レ GHG排出 人工時期         本計・ 事崎川事業所         コード (1214) ガスコージェネレーションの検討中 検討の結 電力使用の平準 能したが排験の有効利用等への投資効果が認められなかったためコジェネレーション導入を見 いなかったためコジェネレーション導入を見 ると共に2基あるコンプレッサーに更新・ ると共に2基あるコンプレッサーに更新・ ると共に2基あるコンプレッサーに更新・ ると共に2基あるコンプレッサーを連結上161監 視をすることによりメンテナンス時期の適性化 を実施し余分な電気使用量を抑えている。         2017 年度           13         人工時期 人工時期         コード (0)         イフード (0)	^	平準化	堺事業所	省エネ	保温の个具合個所を調査を実施した。	2017	年度
5         レ 人工時無 早年化         神崎川事業所 場事業所         本文         実施する2年に1回         ~         2017 年度           6         レ 人工時期 レ 人工時期 レ 人工時期 中崎川事業所         本社         コード (1299) 夏季のノーネクタイなどクールビズを継続中 ~ 2017 年度         2015 年度 ~ 2017 年度           7         レ 人工時期 レ 上平作 ・ 2017 年度         全事業所         コード (1112) 省エネ活動の啓 要と習慣化のた め で省エネ経動の啓 した。 2017 年度         2015 年度 ~ 2017 年度           8         レ 人工時期 平準化         中崎川事業所 平事業所         コード (1218) 照明のLED化の推進を実施 年間10%程度の照 明をLED化する 堺事業所で厚生棟食堂の照明 更な室、トイレなどの照明をLED化、神崎川事 業所、作業場のLED化に続き外灯の LED化、実施 機等へ流量計の取り付けを計画中 流量計をボーイラー出口、設備の熱交換 機等へ流量計の取り付けを計画中 流量計をボーイラー出口に設置し、使用量のデーター集計中 2017 年度         2015 年度 2017 年度           10         レ GHG排出 人工時期         オー財・ 事業所         コード (1121) 貫流ボイラーを省エネタイプのボイラーに2017 年度に更新した。 ボイラーが使用する13A使 第二ネ         2015 年度 ~ 2017 年度           11         レ GHG排出 人工時期         本計・ 事崎川事業所         コード (1214) ガスコージェネレーションの検討中 検討の結 電力使用の平準 能したが排験の有効利用等への投資効果が認められなかったためコジェネレーション導入を見 いなかったためコジェネレーション導入を見 ると共に2基あるコンプレッサーに更新・ ると共に2基あるコンプレッサーに更新・ ると共に2基あるコンプレッサーに更新・ ると共に2基あるコンプレッサーを連結上161監 視をすることによりメンテナンス時期の適性化 を実施し余分な電気使用量を抑えている。         2017 年度           13         人工時期 人工時期         コード (0)         イフード (0)							
5         東事化         現事業所         省エネ         2017 年度           6         レ 石田橋 レ 平単化         コード (1299) 夏季のノーネクタイなどクールビズを継続中 クールビズ         2015 年度 2017 年度           7         レ GHG排出 レ 工用器 レ 平単化         コード (1112) 省エネボスターの作成、掲示と配布 堺事業所 で省エネ活動の啓蒙と習慣化のた 炭と習慣化のた 炭と習慣化のた した。         省エネボスターの作成、掲示と配布 堺事業所 で省エネ標語を募集し優秀作を食堂階段に表示 した。         2015 年度 2017 年度           8         レ GHG排出 レ 工用器 平単化         コード (1218) 照明のLED化の推進を実施 年間10%程度の照 明をLED化である 堺事業所で厚生練食堂の照明 平度衣室、トイレなどの照明をLED化、神崎川事 業所、作業場のLED化に総含外外の LED化実施         2017 年度           9         レ GHG排出 人工排器 平単化         コード (1112) 現える化         コード (1112) 関流ボイラーを省エネタイプのボイラーに2017 年度に更新した。ボイラーが使用する13A使 名エネ 用量が20%改善できた。         2017 年度           10         レ GHG排出 人工排器 平単化         コード (1121) 省エネ タイプにエアーコンプレッサーを連結し101監 を対したが排熱の有効利用等への投資効果が認め られなかったためコジエネレーション導入を見 とりれなかったためコジエネレーション導入を見 とりれなかったためコジエネレーション導入を見 ると共に2基あるコンプレッサーを連結し101監 名と共に2基あるコンプレッサーを連結し101監 役をすることによりメンテナンス時期の適性化 を実施し余分な電気使用量を抑えている。         年度           13         ム工排器 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日		•		コード (1114)			年度
日本	5			1	実施する2年に1回		
10		平準化	堺事業所	省エネ		2017	年度
日本							
1		レ GHG排出		コード (1299)	夏季のノーネクタイなどクールビズを継続中	2015	年度
1         レ GHG排出         コード (1112)         省エネポスターの作成、掲示と配布 堺事業所         2015 年度           2         企事業所         全事業所         コード (1112)         省エネポスターの作成、掲示と配布 堺事業所 で省エネ標語を募集し優秀作を食堂階段に表示した。         2017 年度           2         レ GHG排出	6	レ人工排熱	<del>术</del> 社			$\sim$	
7         レ (A L J ##8)	U	レ 平準化	/ <del>*</del>	クールビズ		2017	年度
7         レ (A L J ##8)							
2017 年度   2		レ GHG排出		コード (1112)		2015	年度
***********************************		レ人工排熱	○ 古 米 元: ○ 古 米 元:	省エネ活動の啓	で省エネ標語を募集し優秀作を食堂階段に表示	$\sim$	
B	(	レ 平準化	王争耒川	蒙と習慣化のた	した。	2017	年度
R   P   P   P   P   P   P   P   P   P		•	1	め			
R   P   P   P   P   P   P   P   P   P		レ GHG排出		コード (1218)	照明のLED化の推進を実施 年間10%程度の照	2015	年度
Paper   P		レ人工排熱	神崎川事業所		明をLED化する 堺事業所で厚生棟食堂の照明		
***********************************	8	平準化		LED化		2017	年度
9       人工排熱       神崎川事業所       見える化       機等へ流量計の取り付けを計画中 流量計をボイラー集計中       2017 年度         10       レ GHG排出			1	1	業所、作業場のLED化に続き外灯の LED化実施	*	. ~
9       人工排熱       神崎川事業所       見える化       機等へ流量計の取り付けを計画中 流量計をボイラー集計中       2017 年度         10       レ GHG排出		レ GHG排出	1	コード (1112)	流量計等の設置 ボイラー出口 設備の埶交換	2015	年度
10       レ ( )		*	11 14 11 14 11	. (1112)			1 🗸
10	9		<b>神岭川事業所</b>	見える化		2017	年度
10		170	1	75,6 9 10		2011	1 12
10		V СНС#⊞		コード (1191)	   貫流ボイラーを省エネタイプのボイラーに2017	2015	年度
Tan			, ,	- (1121)			丁/又
11       レ GHG排出 人工排熱 人工排熱 中崎川事業所       コード (1214) ガスコージェネレーションの検討中 検討の結果:弊社の規模に応じた発電量に見合う機器検討したが排熱の有効利用等への投資効果が認められなかったためコジェネレーション導入を見られなかったためコジェネレーション導入を見られなかったためコジェネレーション導入を見られなかったためコジェネレーション導入を見られなかったためコジェネレーション導入を見られなかったためコジェネレーション導入を見られなかったためコジェネレーション導入を見られなかったためコジェネレーション導入を見られなかったためコジェネレーション導入を見られなかったためコジェネレーション導入を見られなかったためコジェネレーション導入を見られなかったためコジェネレーション導入を見られなかったためコジェネレーション導入を見られなかったためコジェネレーション導入を見られなかったためコジェネレーション導入を見られなかったためコジェネレーション専入を見られるかったためコジェネレーション専入を見られるかったとのコジェネレーション専入を見られるかったとめコジェネレーションの検討中検討の結果まである。       2015 年度 ると共に2基あるコンプレッサーを連結しIoT監視をすることによりメンテナンス時期の適性化を実施し余分な電気使用量を抑えている。         13       GHG排出 人工排熱       コード (0)       年度	10		堺事業所	省エネ			在庶
11       人工排熱       中崎川事業所       電力使用の平準化       果:弊社の規模に応じた発電量に見合う機器検討したが排熱の有効利用等への投資効果が認められなかったためコジェネレーション導入を見がれなかったためコジェネレーション導入を見がよるとれてアーコンプレッサーに更新すると共に2基あるコンプレッサーを連結しIoT監視をすることによりメンテナンス時期の適性化を実施し余分な電気使用量を抑えている。       2015       年度         12       日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日		十年10	1			2011	十尺
11       人工排熱       中崎川事業所       電力使用の平準化       果:弊社の規模に応じた発電量に見合う機器検討したが排熱の有効利用等への投資効果が認められなかったためコジェネレーション導入を見がれなかったためコジェネレーション導入を見がよるとれて正アーコンプレッサーに更新すると共に2基あるコンプレッサーを連結しIoT監視をすることによりメンテナンス時期の適性化を実施し余分な電気使用量を抑えている。       2015       年度         12       日本の理解       コード (1126)       省エネタイプにエアーコンプレッサーを連結しIoT監視をすることによりメンテナンス時期の適性化を実施し余分な電気使用量を抑えている。       2017       年度		I/ CTC##		フード (1914)	ガスコージェネレーションの検封由   検針の鉢	2015	午庄
11			1	- r (1214)			十戌
12	11		神崎川事業所	電力使用の平準			在由
12     レ GHG排出		と 半単化	-	化		2017	十尺
12     レ AT#熱		1. Orranic		7 _ lv (1100)	124 . 2	9015	左曲
12     レ 平準化     中崎川事業所     省エネ     視をすることによりメンテナンス時期の適性化を実施し余分な電気使用量を抑えている。     2017 年度       13     中崎川事業所     省エネ     初とすることによりメンテナンス時期の適性化を実施し余分な電気使用量を抑えている。     2017 年度			-	□ ¬ ¬ (1126)			干及
を実施し余分な電気使用量を抑えている。  GHG排出 コード (0)  年度 へ	12		神崎川事業所	ルーラ			左曲
GHG排出 コード (0) 年度 ~		半準化	-	11111111111111111111111111111111111111		2017	午度
13 人工排熟 ~		•		10 (2)	こへ帰しかりは电水区川里で押んている。		F #
				コード (0)			牛皮
	13					$\sim$	<del></del>
1 1 1 1		平準化					牛度
		6 of 1 day 11 and		<u> </u>			
2. 自動車分野	2. 🖹	ョ動車分野					

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	ジュ	iスケ ール .度)
1	レ GHG排出 レ 人工排熱	本社	コード (2122) 公共交通機関の 利用	営業車の使用を減らして公共交通機関の利用を 推進	2015 ~ 2017	年度年度
2	レ GHG排出 レ 人工排熱	堺事業所	コード (2128) 環境にやさしい 燃料を採用	送迎バスの原料をLPG継続使用	2015 ~ 2017	年度 年度
3	レ GHG排出 レ 人工排熱	神崎川事業所	コード (2199) 環境にやさしい 燃料を採用	送迎バスの原料をLPG継続使用	2015 ~ 2017	年度年度
4	G H G 排出 人工排熱		コード (0) 環境にやさしい 燃料を採用		~	年度年度

# (4)その他の抑制対策



実績報告書						
届出者 住所 東京都港区虎ノ門二丁 R	∄ 3 − 1	7	氏名	森トラスト株式会社 代表取締役社長 伊達 美和子		
特定事業者の主たる業種	69不動產	産賃貸業・管理	<b>美</b>			
	V	大阪府温暖化の 者	防止等に	こ関する条例施行規則第3条第1号に該当する		
該当する特定事業者の要件		大阪府温暖化の 者	防止等に	ご関する条例施行規則第3条第2号に該当する		
		大阪府温暖化の 該当する者	防止等に	ご関する条例施行規則第3条第3号イ又は口に		
事業の概要	都市開發	発および不動産の	の所有、	賃貸、管理		

(1)計画期間												
2015	年	4	月	1	日~	2018	年	3	月	31	目	(3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014)年度	前年度( 2017)年度
温室効果ガス総排出量	6, 189 t -CO <sub>2</sub>	5,885 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,801 t-CO <sub>2</sub>	6,490 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素	の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

		区分	削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	4.6 %	7.7 %	2.7 %	5.0 %
選択		削減率(原単位ベース)	%	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		- %	7.1 %	2.2 %	4.6 %	
吸収量に	吸収量による削減率			%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

H29年度はオフィスビル、ホテルともに稼働率が上昇しているものの、オフィスでは使用量の多い大口テナント退去 (別テナント入居) に加え、オフィス・ホテルともにLED化、その他省エネ性能の高い設備の導入により、電気使用量 が減少した。

温暖化対策推進責任者等を以下のように定め、	テナントに働きかけながら温室効果ガスの抑制対策を講じていきます。
管理責任者のもと弊社の他都県のビルと合わせ	けて地球温暖化対策の実施と研究を全社的に行います。

1. 温暖化対策推進責任者 森トラスト・ビルマネジメント㈱ ビルマネジメント部 マネージャー 2. 温暖化対策推進員 同上 ビル責任者

# (3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

# 1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	<ul><li>レ GHG排出</li><li>レ 人工排熱</li><li>平準化</li></ul>	新大阪MTビ ル1号館 新大阪トラス トタワー	コード (1218) 共用部蛍光灯 のLED化	館内共用部にて使用している蛍光灯を LEDへ変更する。 CO2削減量40.87 t/年 (平成27・28年度実施)	2015 年度 ~ 2016 年度
2	<ul><li>レ GHG排出</li><li>レ 人工排熱</li><li>平準化</li></ul>	新大阪MTビ ル1号館 新大阪トラス トタワー	コード (1113) 温度設定の変更	テナント室内の設定温度を上げる。 (段階的に実施) CO2削減量23.17 t/年 (平成27・28・29年度実施)	2015 年度 ~ 2017 年度
3	<ul><li>レ GHG排出</li><li>レ 人工排熱</li><li>平準化</li></ul>	新大阪MTビ ル1号館 新大阪トラス トタワー	コード (1113) 空気調和設備の 管理	夏季及び冬季の外気導入量の制限 階的に実施) CO2削減量28.8 t /年 (平成27・28・29年度継続実施)	2015 年度 ~ 2017 年度
4	レ GHG排出 レ 人工排熱 平準化	コートヤート゛・ハ゛ イ・マリオット新大 阪ステーション	コード (1216) 空調機交換	客室パッケージ更新によるCOP向上 CO2削減量194.73 t /年 (平成27年度実施)	2015 年度 ~ 2015 年度

# 2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
	GHG排出		コード		年度
1	人工排熱				~
1					年度

(4)その他の抑制対策		

実績報告書							
届出者 住所 東京都武蔵野市中町1-1 6. モンテローザ三鷹本社		氏名	株式会社モンテローザ 代表取締役社長 大神 輝博				
10. センノローリニ鳥本作特定事業者の主たる業種	76飲食店		代表取締役社長 大神 輝博				
	レ 大阪府温暖付 者	との防止等(	ドに関する条例施行規則第3条第1号に該当する				
該当する特定事業者の要件	大阪府温暖( 者	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する 者					
	大阪府温暖( 該当する者	との防止等!	Fに関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに				
事業の概要	事業内容:外食事業 従業員数: (社員) (アルバ 資本金:28億9,5007 ※平成30年3月末時点	2,547名 イト従業員 5円	員)20, 461名				

(1)計画期間							
2015	年 4	月	1 目~	2018 年	3	月	31 日(3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014)年度	前年度( 2017)年度
温室効果ガス総排出量	11,150 t-CO <sub>2</sub>	8,511 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	12,919 t -CO <sub>2</sub>	9,798 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素	の吸収量	0 t -CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分			削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017年度)
選択		削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ	削減率 (原単位ベース)	3.0 %	3.0 %	-7.6 %	0.8 %
削減率(平準化補正ベース)			- %	3.1 %	-5.0 %	1.4 %
吸収量による削減率			%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (店舗数 ) (温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

前年度は全体として削減はなされているが、店舗数減少に伴うことが要因として挙げられる。しかし、営業時間の延長などにより各店舗ごとの使用量は増加傾向にあるため、今後は各店舗ごとの削減に努めていく。

エネルギー管理統括者・推進者を中心として本社・営業部(店舗)に分割し、推進体制を構築している。 本社においては、省エネ機器の導入や機器メンテナンス、エネルギー使用量の集計等を行い、営業部へ開示している。 営業部はエリアマネージャーを中心として各店舗にて設備の管理や点検、省エネ活動を実施している。以上の様に大き く2つの部門に分けて活動している。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

#### 1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容		実施スケ ジュール (年度)	
1	レ	GHG排出			新規出店時に現行体制への組み込みを行い、推 進体制を確立していく		年度	
		人工排熱	全事業所	推進体制の整備				
	$\nu$	平準化				2017	年度	
2	レ	GHG排出	全事業所		全店舗のエネルギー使用量を随時集計し、毎月	2015	年度	
		人工排熱		る省エネ意識の	開示することで削減意識の向上へつなげる。	$\sim$		
	レ	平準化	土尹未別			2017	年度	
				向上				
	$\nu$	GHG排出		コード (1122)	冷凍・冷蔵庫内の区画分けにより冷気の循環効率を高め、消費電力の抑制に繋げる	2015	年度	
3		人工排熱	全事業所	冷凍・冷蔵効率の合理化		$\sim$		
3	レ	平準化	土尹耒川			2017	年度	
		3		ツロ 生化				
4	$\nu$	GHG排出			現状LED照明を全事業所に一部導入しているため、今後導入箇所の拡大を図り、更なる省エネに繋げていく。	2015	年度	
		人工排熱	全事業所	省エネ効果の高 い設備への更新		$\sim$		
	レ	平準化	王尹耒川			2017	年度	
				V IX III 、 V ) 欠利				

#### 2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
		GHG排出		コード		年度
1		人工排熱				$\sim$
1						年度

(4)その化	(4)その他の抑制対策									